

国際再開発ゼミ 開催



協会設立20周年記念事業の一環として、欧米4カ国の再開発事業に携わる実務専門家を招聘し、各国の事業推進方法を理解する中で、今日の都市再開発事業成立に関する有益な推進方法を探ることを目的とした国際都市再開発ゼミを企画・検討してまいりました。

その第一弾として去る7月7日協会会議室にて、アメリカ・ロサンゼルス市都市再開発公社(CRA) 上席資金調達官ジョセフ・ノセラ氏を招聘し、「アメリカの都市再生展開(事業・組織/手法・資金)」と題して開催いたしました。

当日は、国際都市再開発ゼミ実行委員で当協会調査研究委員である南部繁樹氏の司会および宮本愛氏の通訳のもと進行されました。定員を上回る参加者で満席となる中、協会佐藤専務理事より開催挨拶の後、ノセラ氏よりレクチャー1で、本日のメインテーマであるロス市の都市再開発事業の現状と事業手順方法、その上での

CRAの役割、また土地所有者・近隣地域生活者との合意形成方法、事業完成のための民間事業参画者の活用・導入方法、コンサルタント等開発専門家の活用・導入方法について画像も交えて懇切丁寧な説明がありました。

その後レクチャー2では、日米の都市再開発事情に精通し米国での駐在経験の中で、ノセラ氏と交流のある日本政策投資銀行西山健介氏より、TIF制度についてその概要および実例を基に近年の施設需要と供給状況について、また金融機関、民間事業者との調整、ロス市でのBID制度についてとロス市の状況、条例の概要など、ノセラ氏との意見交換を交えながら説明がありました。

参加者との意見交換では、受講者から日米における専門家の担うべき役割などについて積極的な質疑応答があり、盛況下に終了いたしました。



ノセラ氏と実行委員、協会役員

UR都市機構・都市住宅技術研究所の平成17年度研究報告会

「まちづくりから半世紀を経てまちの再生へ」をテーマに特別講演と研究報告会を開催します。

特別講演

「江戸集住文化と現代」東京都江戸東京博物館 館長 竹内 誠氏

研究報告テーマ

「欧州諸国における公的住宅のストック再生事業について」
 「郊外ニュータウンにおけるデマンド交通システム(DRT)の社会実験」
 「緑景観の評価に関する研究
 ～緑景観が不動産取引におよぼす効果に関する考察～」
 「東雲キャナルコートCODANにおけるまちづくりの取り組みと成果」
 全9課題

- ◆日時 平成17年10月5日(水)
10:30~16:30(開場10:00)
- ◆会場 ヤマハホール(営団地下鉄銀座線/丸ノ内線/日比谷線の銀座駅A3出口より徒歩約4分)
- ◆定員 500名 入場無料(事前申込みは必要ありません)
- ◆主催 UR都市機構 都市住宅技術研究所
Tel.0426-44-3751
<http://www.ur-net.go.jp/rd/> 詳細はホームページ参照